

令和5年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（春季）

労働法

- 1 以下の事例を読んで、(1) と (2) の設問について、関連する最高裁判決を踏まえて論じなさい。根拠となる条文がある場合は、明記すること。

【事例】

Aは、Y社と労働契約を締結し、営業部第1営業課の課長として勤務していたところ、心療内科の医師から、長時間労働や業務上のストレス等が原因でうつ病に罹患しているとの診断を受けた。しかし、Aは、診断を受けた後も、その診断の事実をY社には申告せずに勤務を継続していたところ、うつ病が悪化し、2022年11月〇日、Aは自殺に至った。Aに対する日常的な指揮監督は、Aの上司である営業部の部長のBが行っていたところ、Aの自殺の約3か月前から、Aにはひどく落ち込んで元気がない様子がみられ、仕事中のミスも多くなっており、BもAの変化を認識していたが、Aから相談などがなかったことから、BはAに対して具体的な指示や注意をしていなかった。なお、Aは、恒常に1か月あたり60時間から80時間程度の時間外労働に従事していた(時間外労働手当等については、適切に算定され、支給されている)。

- (1) Aの妻であるXは、Aの自殺に関して、Y社を被告として民事訴訟を提起した。Xが行う請求内容（具体的な金額を示す必要はない）やその法的構成について説明しなさい。法的構成が複数ある場合は、それらの違いも説明しなさい。
- (2) 上記(1)の訴訟において、Y社は、仮にY社に損害賠償責任が認められるとしても、
①Aの性格が真面目すぎること及び②AがY社やBに対してうつ病の診断の事実を申告していないことを理由として、損害額を減額すべきであると主張した。Y社が主張する①と②の理由は、減額の理由となるか、それぞれ説明しなさい。また、Xの請求が認められるか否か（結論）について、事案の事実関係を踏まえて論じなさい。

(50点)

- 2 爭議行為に関する(1)～(4)の設問について、関連する最高裁判決を踏まえて論じなさい。根拠となる条文がある場合は、明記すること。

- (1) 労働者の正当な争議行為に対して、どのような法的保護（保障）があるか。
- (2) ピケッティングとはどのような行為か。ピケッティングの正当性の限界は、判例において、どのように解されているか。
- (3) 判例において、使用者によるロックアウトの法的根拠はどのように説明され、ロックアウトの正当性は、どのような判断枠組みで判断されるか。また、正当なロックアウトの法的効果とはどのようなものか。
- (4) 最高裁判決の事案を踏まえて、ロックアウトの正当性の有無についての判断を具体的に説明しなさい。

(50点)